

## 18 ブドウ産地の将来を見据えた第三者への園地継承につなぐ取り組み

### ■ J A 香川県高瀬ぶどう部会施設生産者 ■

(西讃農業改良普及センター 片桐孝樹)

#### ●対象の概要

三豊地区高瀬ぶどう部会は、現在111戸で構成されており、三豊市高瀬町内のみならず隣接する三豊市三野町内のブドウ生産者が加入して活発な組織活動が行われている。主要品種である「ピオーネ」は、関係機関との連携により、施設化の推進や着色の良い優良系統の選抜等が進められ、品質の向上も顕著となった。また、平成16年からは、普及加速化のための現地栽培調査試験に基づき、皮ごと食べられる香りと甘みの強い品種である「シャインマスカット」の栽培にいち早く取り組み、新たな優良品種の産地化へ向けての活動を進めているところである。

#### ●課題を取り上げた理由

西讃管内のブドウ産地は、生産者の高齢化と担い手不足により、栽培条件の悪い園地や老木化の進んだ園地を中心に廃園が増加傾向にある。一方で、「さぬき讃フルーツ」の対象品種であるピオーネやシャインマスカットは、新規の改植推進により、作付面積は増加している。

近年、国の若い担い手等への施策もあり、徐々に世代交代が進んでいるところ。しかし、産地の将来を担う意欲ある担い手が、所得目標に即応した経営規模の確立が図られるよう、優良園地の継承に向けた明確なビジョンや産地全体の意識の醸成を企画した。

そこで、産地のブドウ生産について、売上げや出荷状況から生産構造の分析を行い、生産者の意向調査から優良園地のマップを作成することによって、産地の将来ビジョン策定と果樹版人・農地プラン作成をするため、取り組みを始めた。

#### ●普及活動の経過

##### 1 管内のブドウ生産者数及び販売金額によるパレート分析

平成25年産ブドウについて、県全体の生産者別販売金額等の調査により、販売金額別にグループに分けて、全体の生産構造やグループ毎の特徴、管内の状況等について分析を行った。

表-1 ブドウ生産者数及び販売金額

年度	平成25年産			
	生産者数	割合 (%)	販売金額	割合 (%)
香川県	423	100.0	5.41億円	100.0
西讃地区	246	58.2	3.28億円	60.6

##### 2 園地継承に係る県外先進地調査

岡山県倉敷市船穂地区で行われている新規就農者への受入れ事業や園地継承の状況等について、ぶどう部会の役員と視察を行い、将来的な産地での取り組みに当たって検討を行った。



倉敷市船穂地区での視察状況

##### 3 施設生産者を対象とした意向調査

新規参入者の受け入れが盛んである岡山県倉敷市船穂地区でも、園地の出し手側の考えが重視されるとともに、候補になる園地マップは現在無く、関係機関等の情報を基に個別に対応しているのが現状であった。

そのため、当地域で推進を図る場合、産地のブドウ生産の中心となっている高瀬地区の施設生産者51名を対象に、現在の生産概況や将来的な生産や栽培委託、園地継承の意向について、アンケート調査を行った。

##### 4 意向調査に基づく園地継承マップの作成

園地継承の意向調査の結果やブドウの生産状況等に基づき、関係機関と連携して園地継承マップの作成に取り組んだ。

## ●普及活動の成果

- 1 平成25年度に香川県JA全体の共同選果場から出荷したブドウ生産者は 423名で、販売金額は5.4億円であった。
- 2 販売金額を上位から4つにグループ分け(A>B>C>D)を行い、過去のデータと比較したところ、上位2グループは、生産者数、累積金額とも増加しており、生産者は販売金額の低いグループで減少していることが分かった。

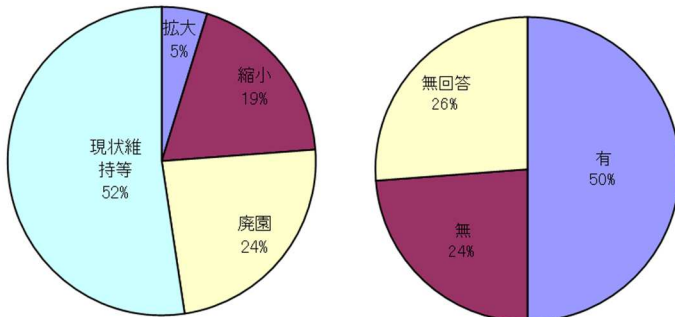
西讃地区は他の地域に比べて、全体の販売額の減少は少なく、収益性の高い「さぬき讃フルーツ」であるピオーネやシャインマスカットへの転換が進んだことによるものと考えられた。

表ー2 平成25年度香川県産ブドウにおける販売金額別生産者数割合(県計)

グループ	販売金額	生産者数		累積販売金額	
		(人)	(%)	(億円)	(%)
A	600万円以上	11	2.7	0.9	16.7
B	300~599.9万円	44	10.4	1.7	31.5
C	100~299.9万円	109	25.7	1.7	31.5
D	99.9万円以下	259	61.2	1.1	20.3
	合計	423	100.0	5.4	100.0

- 3 意向調査については、将来の生産に関して、現状維持の回答が全体の半数以上であり、後継者有りと答えた生産者でも約9割が現状維持との回答であった。

また、第三者への園地継承や栽培委託については、回答者の内、半数の生産者が自分の園地の栽培を委託したいとの回答であり、後継者がいないと答えた生産者の約7割が委託したいとの回答であった。



図ー1 高瀬地区施設生産者に対する意向調査の概要  
(左：10年後の生産 右：第三者への栽培委託)

- 4 意向調査の結果や現在の生産管理状況等を関係機関の担当で総合的に検討し、第三者への栽培委託の希望を持つ生産者の園地の内、現状で品質の高い果実生産が出来ている園地を継承園地の候補に選定し、それを地図上に記した高瀬地区の園地継承マップを作成した。



園地継承マップ  
(高瀬地区全景、緑の点が継承候補園地)

## ●今後の普及活動の課題

- 1 高瀬地区においては、将来的な産地設計や後継者育成等の園地活用について、園地継承マップを参考に部会役員と共に、検討していくことになった。今回の活動を一つの地域に留めることなく、他の産地へ波及を図っていく必要がある。
- 2 ブドウ栽培に関しては、個人の技術に負うところも大きく、園地の継承とともに、技術の継承を図るため、生産歴の浅い新規参入者や女性に絞った定期的な園芸講座の開催や個別指導による課題解決を図っていく必要がある。



園芸講座の開催状況